

\*イスラエル・ハマスの戦争～主のご計画がなることを求めて～

現在、日本でもイスラエルとガザの情勢が盛んに報じられ、情報の嵐の中にいます。その中で祈り続けるためには、「変わらない神のことばである聖書」を土台にする必要があります。今後、ハイメールでは、現地の情報を元に祈りの課題をお送りすると同時に、聖書的な祈り課題を送信させていただきます。

聖書を信じる者は、イスラエルとハマスの戦争を、テレビやインターネットのニュースに左右されることなく、常に創造主の視点に立って判断し、祈ります。つまり、神がイスラエルと結ばれた**アブラハム契約**という大きな枠で、イスラエルを見守っています。

イスラエルは、アブラハム以来 4 千年間、異教徒からさまざまな仕打ちを受けてきました。特に、過去 2 千年間はローマ帝国に始まりキリスト教国からも繰り返し迫害されてきました。20 世紀には民族絶滅の危機にまで追い詰められましたが、その時は世界のどの国も助けはくれませんでした。ユダヤ人はそんな歴史を生き抜いてきたのです。

ユダヤ人が滅びなかったのは、主がアブラハムとその子孫イスラエルと結ばれた契約が、今日も生きていることの証明です。その契約とは、主がイスラエルを選んで祝福し、世界の祝福の源（基）とするという永遠の約束です。イスラエルを祝福する者は祝福され、呪う者は呪われるという約束も不変です（創世記 12:1～3）。

イスラエルが異邦人のクリスチャンと共に神の国をもたらす日は必ず来ます。この神の計画は必ず成就すると聖書は語ります。聖書によれば、ハマスのヒズボラもイランもイスラエルを絶滅させることはできません。むしろイスラエルに罪が無いからそうなるものではありません。これは、イスラエルがアブラハムとの契約により、神から「召命と賜物」を授かった「主の民」として世界に祝福をもたらすために他なりません。この事実は人間には変えようがないのです。世の報道は戦争の悲惨な状況を伝え、どちらが非人道的かを論じます。しかし、私たちはまず主の契約と計画という大きな枠に立ち、そしてイスラエルに主の御心がなるように祈りましょう。

2023 年 10 月 29 日

## 週報

§ 今年の教会テーマ  
「恵みあふれる教会」

§ 今年の主題聖句

「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。」ヨハネ 1 章 16 節

〒513-0035 鈴鹿市矢橋町 471-2  
宗教法人 日本ネクスト・タウンズ・クルセード  
鈴鹿キリスト福音教会  
059-383-5145(教会)

10月29日

## 毎日の信仰告白

「恐れるな、喜べ。もっと喜べ、  
今最高に喜べ、感謝せよ、主にあつて  
主イエスを信じる私に、今日も良いことがあります  
主イエスを信じる私に、今日も美しいことが始まります  
神は善にして善を行なわれます  
マイナスはプラスに 不可能は可能に  
全てあい働いて益とされます  
わたしは恐れ退いて滅びる者ではありません  
信じていのちを保つ者です  
私と私の家族はみな救われます。ハレルヤ」

### 《報 告》

- ※ 本日は礼拝会に関西聖書学院の舎監をしておられる富浦先生をお迎えしています。
- ※ 毎朝、イスラエルを覚えて祈るときを持ちましょう。教会では毎日の早天祈祷会の中で、6時半からは特にイスラエルの守りと平和のために共に祈っています。

詩篇 122:6 エルサレムの平和のために祈れ。

「あなたを愛する人々が安らかであるように。

122:7 あなたの城壁の内に平和があるように。あなたの宮殿の内が平穏であるように。」

122:8 私の兄弟友のためにさあ私は言おう。「あなたのうちに平和があるように。」

## 「主への感謝と渴きによって」

信仰生活の中で点検すべき事がらっていくつかあります。そのうち次の2つを必ず覚えておいてください。1つは「満足」で、もう1つは「渴き」です。一見すると、満足することと渴くことは正反対のように思えます。ところが、聖書はこの2つのバランスを強調しています。むしろ、どちらか一方に偏ることを警戒しているのです。

まず「満足」とは、感謝する心です。私たちは皆、この世に何一つ持たずに生まれてきました。ところが、今はどうでしょうか。着るものも、寝るところもあり、与えられた才能によって仕事もしています。罪をもって生まれてきましたが、罪がゆるされて、救われました。礼拝も捧げます。すべて神様の恵みです。この恵みのゆえに感謝し、満ち足りる心が「満足」です。

次に「渴き」とは、別の言い方をすると、聖なる不満足ということができません。信仰の成長と自分の変化のために、恵みを渴望し続けることです。今の水準にとどまろうとすれば、必ず退歩することになります。これは満足しないで不平を言うべきだとか、感謝すべきでないと言っているではありません。今まで受けてきた神様の恵みには、当然感謝すべきです。そして、その恵みに対して満足すべきです。しかし、それと同時に、イエス様の満ち満ちた身丈にまで成長したいという渴きも、なくてはならないのです。これは、クリスチャンとして欠かすことができないビジョンです。私たちのビジョンは、イエス・キリストに似ていくことです。

月刊誌 リビングライフ